

朝日のあたる家
(The house of the rising sun)

フォークソングが流行った時代に「朝日のあたる家」という唄があった。アメリカから入ってきた唄だが、色々な歌手が手掛けて歌詞にも色々なバージョンがあったらしい。ジョーン・バエズが唄ったものがオリジナルバージョンに近いらしいが、私はその詳細を知らない。

There is a house in New Orleans They call The rising sun

It's been the ruin of many a poor girls

日本でも若手の歌手何人かが唄っていたが、ジョーン・バエズが唄っている歌詞の持つイメージと合わない日本語歌詞もあったような気がした。後にジョーン・バエズのバージョンを和訳した上で、それを元に日本語版の作詞をしたのが浅川マキで、それをちあきなおみが唄ったものが原曲の持つ雰囲気に近いと言われているらしい。

「朝日のあたる家 (The house of the rising sun)」とは娼婦の館の名前である。また、前述の浅川マキ作詞のちあきなおみバージョンでは「朝日楼」と唄われている。

わが国では「ピンク」という色は、特定のよからぬ分野を示す言葉として嫌われた時代があった。日本以外の国では、「花の館(家)」や「飾り窓のある家」などが娼婦の館を意味する国もあるらしい。

わが国では、お店やホテルやアパートなどの名前を付ける時に「横文字 (外国語)」「カタカナ」などで命名するとかっこいいと思う人が増えているようで、時には複数の国の言葉や複数の言語を混ぜ合わせた「新造語」までが登場している。マンションにもカタカナの凝った名前が付けられることが多く、凝った名前ぐらいいならまだ良いのだが、時々はっとするような名前に出会うこともある。

国外に送る郵便物に自分のアドレスを書く時に、マンションの名前を書くのが恥ずかしいという人の話を聞いたこともある。

ある日のこと、新聞の折り込みに某大手不動産会社の広告が入って来た。

多数の中古マンションの販売広告が載っているのだが、そのマンションの名前を見て驚いた。

英語が使われているものが多いが、中には英語圏には存在しないかもしれない表現もある。

近年フランス語・イタリア語・スペイン語なども数多く登場するようになったのはまだ良いが、多国語の単語の組み合わせの物が目立ってきている。

また、日本語の意味を調べてみたがどうしても意味がわからないものもあり、なぜこのようにこねくりまわして名前を付けるのがまったく理解できない。

「ところで、日本語ではまずかったの？」不思議がいっぱい詰まっている広告だった。

個々の名前を列挙してコメントを添えてみたいと思ったが、現在そこに住んでいる方々を傷つけることにもなりかねないので、それは控えることにする。

広告には 15 件のマンションの再販広告が載っていた。(私見で勝手に分類して見た)

◆まずは使用言語分類

英語だけのもの.....10件 英単語ではあるが英語にはない言葉.....2件
異なる言語の合成.....3件 (英語+フランス語・スペイン語+イタリア語など)

◆英語だけの名前の分類

集合住宅の名前として適切かどうか心配なもの.....3件
英語として意味が通じそうなもの.....5件
発音が異なる懸念があるもの.....2件

マンション購入にあたって、間取りは良いし周辺の環境も悪くないと気にいったのだが、名前がどうしても気にいらず購入をあきらめた人の話も聞いたことがある。

売る側は「カッコよさ」を商品の一部と考えて「独自のかつこ良い名前」を考える。買う人は一体どう考えているのだろうか、興味深い。

生活のあらゆる部分に横文字やカタカナ語が使われて、日本語離れ（母語不在国化）と国籍不明語化が進んで行く。一方では、外国人には通じない横文字も正々堂々と蔓延し続ける我が国、これからどうなっていくのだろうか。

以上